B-5　韓国語における新奇なモノ敬語の容認性に与える要因の考察*

丁仁京・滝浦真人・林炫情・玉岡賀津雄

要旨

本研究は、現代韓国語の敬語使用における主体尊敬接辞-*si*-がモノ主語に用いられる新奇なモノ敬語「事物尊称」の用法がどの程度まで受け入れられているか、またその容認度に影響する要因が何であるかを明らかにすることを目的とする。調査では、ソウル・京畿道在住の韓国語母語話者 20 代～60 代以上の5世代、男女各 20 名の合計 200 名を対象に、それぞれの事物尊称の容認度を5段階のリッカート尺度で判定してもらった。決定木分析の結果、事物尊称がある程度容認されていることが明らかになった。また、容認度への影響要因としては、当の-*si*-の有無と待遇形式とに関わるパターンに加え、言及内容における客の関与度に差がある文タイプ、さらには回答者の世代が抽出された。本調査の結果は、新奇な敬語と言える事物尊称の使用が、対面的な話し手―聞き手関係における「聞き手意識」に影響されている可能性を示唆している。

1. 研究背景と先行研究

韓国語の主体尊敬接辞-*si*-は、(i)話し手が、ある行為や状態の主体、すなわち文の主語を高めようとする場合、(ii)尊敬の対象となる人の所有物や体の一部が文の主語である場合、話し手がその人物を間接的に高めるために、述語に用いる（韓国国立国語院 2012）。このように主体尊敬接辞-*si*-は、直接的・間接的に主体である人物に対する敬意を表しており、この点では日本語の「尊敬語」と同様である。(1)は「直接敬語」、(2)は「間接敬語」（ないし「所有敬語」）である。

(1)　*seonsaengnim-i o-**si**-bnida.*（先生がおいでになります。）
先生-が　来る-***si***-終結語尾

(2)　*seonsaengmin-eun ki-ga keu-**si**-bnida.*（先生は背がお高いです。）
先生-は　背-が　高い-***si***-終結語尾

しかし、近年、韓国語では敬語使用に大きな変化がみられており、主体尊敬接辞-*si*-が対者敬語として用いられているとしか解釈できない使い方が観察されている。たとえば、(3)のようにモノ主語の文で尊敬語（主体敬語）を使用するものである。

(3)　*gogaegmin, amelicano nao-**sy**-eoss-seubnida.*（お客様、アメリカーノ(が) 出られました。）
お客様　アメリカーノ　出る-***si***-過去-終結語尾

この種の表現は、接客・サービス業界で多く見られ、「百貨店敬語」や「事物尊称」と呼ばれている（以降「事物尊称」と呼ぶ）。これらは、規範的な用法からは逸脱しているが、所有敬語の拡張的使用による主体尊敬として説明することができる。丁（2013, 2016）によると、これらは、規範的な用法からは逸脱しているが、事物尊称に現れるモノ主語はすでに客が購入したもの、またはこれから購入するであろうものである。そのため、無情物を高め、間接的に聞き手に対して敬意を表していると考えられ、-*si*-の用法である所有敬語の拡張的使用による主体尊

* 本研究は、日本学術振興会科学研究費・基盤研究(C)「現代韓国語敬語における使用原則の変化に関する語用論的調査と考察」（代表：丁仁京、研究課題番号：20K00561）の助成を受けた。

敬として説明することができる。つまり、事物尊称の-*si*-は＜話し手（店員）―聞き手（客）＞という限られた状況の下で、「所有者の拡張による主体尊敬」の所有敬語がさらに語用論的に解釈されることにより、聞き手に対する「かしこまり」「聞き手への配慮」の気持ちを表す一種の対者敬語として機能するようになっていると考えられる。

事物尊称-*si*-については、すでに 2008 年頃からマスメディアでも話題にされている。2013 年には国立国語院もこのような事物尊称は誤用であると指摘しているが、対者敬語として機能が拡張したものとする見解が多い（박서준 2004、이정복 2006, 2010、이래호 2012、JUNG 2020 など）。また、事物尊称の-*si*-に関して、이수현(2012)、東亜日報(2012)、알바몬(2019)が実態調査を行っている。しかし、これらの研究は、調査対象が接客・サービス業界の従事者（話し手）に限定されている。他方、김은혜(2016)では、50 名の韓国語母語話者を対象に事物尊称-*si*-の受容性判断と不快感の程度の判断についての認識調査を行った結果として、かなり否定的に受け止められていると報告されている。しかしながら、被験者の特性などが考慮された調査ができなかったために、統計的な有意性の検証もできていないといった問題があった。以上のように、現象の存在自体は広く知られていても、この新奇的な用法がどの程度受け入れられているか、また被験者の特性などがどう容認度に影響するかについては未検証なままである。そこで、本研究では、諸条件をコントロールしたデザインの調査を企画し、「聞き手」の観点で新奇なモノ敬語「事物尊称」の用法がどの程度まで受け入れられているか、またその容認度に影響する要因が何であるかを検証することにした。

2. 調査の方法と分析

本研究では、現代韓国語の事物尊称-*si*-の使用に関して、聞き手の違いによる容認度の要因を検証するため、まず接客・サービス業界で使用されている各種敬語表現のデータを収集して、分類・抽出した事例をもとに、7場面（7 種類）の表現を選定した。そして、表1に示したように、ソウル・京畿道在住の韓国語母語話者 20 代から 60 代以上の5世代について、男女各 20 名の合計 200 名を対象に、事物尊称の容認度を調査した。調査は 2020 年 11 月に行った。本研究で設定した調査協力者の特性は、5（世代）×2（被験者の性別）×2（サービス業への従事・非従事）×6（職業；学生、事務職、サービス業、専門職、主婦、その他）の4つである。

表１　世代、性別、サービス業への従事・非従事別にみた調査協力者の内訳

サービス業への従事・非従事	20 代		30 代		40 代		50 代		60 代・70 代		合計
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	
サービス職	10	10	10	10	10	10	10	10	5	4	**89**
非サービス職	10	10	10	10	10	10	10	10	15	16	**111**
合計	**20**	**20**	**20**	**20**	**20**	**20**	**20**	**20**	**20**	**20**	**200**

図１　イラストの例（表現 5）

質問では、7場面の表現について、話者である店員の男女別、述部の待遇形式が3タイプで、計 42 表現を作成した。これら 42 の表現の特性としては、7（文）×2（男女）×3（待遇形式）とした。これらの7場面の 42 表現について、図1のようにオンラインで調査対象の表現を含んだイラストを1問ずつランダムに提示し、1の「とても違和感がある」から5の「まったく違和感がない」のリッカート尺度で、調査協力者（表1を参照）に聞いた。質問項目と述部タイプは

表2に示したとおりである。表現1は統制例文で、従来からの所有敬語文であり、2から7までは新しく使用されるようになったモノ敬語文である。

表 2　韓国語の新奇なモノ敬語場面に関する質問項目と述部タイプ

文タイプ	表現	述部タイプ	待遇形式
1	1	*gogaegnim, gabang-i jeongmal meosiss-seubnida.*	***habnida***
	2	*gogaegnim, gabang-i jeongmal meosiss-eusi-bnida.*	***hasibnida***
	3	*gogaegnim, gabang-i jeongmal meosiss-euse-yo.*	***haseyo***
		〔美容室〕お客様、カバンがとても素敵です（等）。	
2	4	*gogaegnim, amelicano n awa-ss-seubnida.*	***habnida***
	5	*gogaegnim, amelicano nao-sy-eoss-seubnida.*	***hasibnida***
	6	*gogaegnim, amelicano nao-sy-eoss-seo-yo.*	***haseyo***
		〔コーヒーショップ〕お客様、アメリカーノ（が）出ました（等）。	
3	7	*gogaegnim, i sangpum-eun 30% seil-i-bnida.*	***habnida***
	8	*gogaegnim, i sangpum-eun 30% seil-i-si-bnida.*	***hasibnida***
	9	*gogaegnim, i sangpum-eun 30% seil-i-se-yo.*	***haseyo***
		〔靴店〕お客様、この商品は30％セールです（等）。	
4	10	*gogaegnim, i sangpum-eun gyohwan hwanbul an doe-bnida.*	***habnida***
	11	*gogaegnim, i sangpum-eun gyohwan hwanbul an doe-si-bnida.*	***hasibnida***
	12	*gogaegnim, i sangpum-eun gyohwan hwanbul an doe-se-yo.*	***haseyo***
		〔ブランド品ショップ〕お客様、この商品は交換・返金できません（等）。	
5	13	*gogaegnim, i jeopum-i yojeum jal naga-bnida.*	***habnida***
	14	*gogaegnim, i jeopum-i yojeum jal naga-si-bnida.*	***hasibnida***
	15	*gogaegnim, i jeopum-i yojeum jal naga-se-yo.*	***haseyo***
		〔家電量販店〕お客様、この製品がこの頃よく売れます（等）。	
6	16	*gogaegnim, wapeul-ilang tosutu gagyeog-eun ttoggat-subnida.*	***habnida***
	17	*gogaegnim, wapeul-ilang tosutu gagyeog-eun ttoggat-eusi-bnida.*	***hasibnida***
	18	*gogaegnim, wapeul-ilang tosutu gagyeog-eun ttoggat-euse-yo.*	***haseyo***
		〔カフェ〕お客様、ワッフルとトーストの値段は同じです（等）。	
7	19	*gogaegnim, jeo uija-neun itallia gagujeom-eseo jigjeob jumunhae-ss-subnida.*	***habnida***
	20	*gogaegnim, jeo uija-neun itallia gagujeom-eseo jigjeob jumunha-sy-eoss-subnida.*	***hasibnida***
	21	*gogaegnim, jeo uija-neun itallia gagujeom-eseo jigjeob jumunha-sy-eoss-eoyo.*	***haseyo***
		〔洋服のブティック〕お客様、あの椅子はイタリアの家具屋から直接取り寄せました（等）。	

本研究の分析では、容認度を9つの変数で予測する決定木分析（IBM SPSS Statistics Version 22）を用いた。決定木分析を用いる利点は、ある言語行動の選択に影響しうる複数の要因から有意な要因を判断し、予測の強さと相互作用にしたがって樹形図を描いて、結果を視覚的に示すことができるところにある。決定木分析のため

の変数は、言語外的要因として、調査協力者の属性である（1）「世代」（2）「性別」（3）「職業（6種類）」（4）「サービス業への従事・非従事」、表現的特性として（5）話者である店員の「性別」、（6）述部における3タイプの「待遇形式」（格式的丁寧度の高い*habnida*［適格形］、主体尊敬接辞-*si*-を含んだ*hasibnida*および*haseyo*）、（7）文法的な正しさである「統語度（高・中・低）」、（8）聞き手の文脈的な関与を示す「関与度（高・中・低）」、（9）提示される「文タイプ」である。

なお、決定木分析を使った語用論的な研究については、手法としての決定木を主題的に取り上げたKiyama, Choung, Takiura (2019)のほか、間接発話行為を扱った李・玉岡(2019)、助言場面を扱った黄・玉岡(2015)、第三者待遇表現を扱った林・玉岡・宮岡(2008)、ポライトネスとジェンダーを扱ったTamaoka, Lim, Miyaoka and Kiyama (2010)を参照されたい。

文タイプ1の表現1～3は従来から使用されてきた所有敬語であり、統語的に正しい統制条件として設定した。逆に、文タイプ7は、洋服のブティックで、お店にある椅子が素敵だと言う客に向かっての店員の発言であり、客の文脈的な関与は低い。これらは関与度が低い条件である。それゆえ、文タイプ1の表現1～3は、容認度が高くなり、文タイプ7の表現20と21は容認度が低くなることが予想される。文タイプ2～7までが新奇なモノ敬語であり、本研究の関心の対象である。各場面で待遇形式*habnida*体は、統語的にも語用論的にも正しい統制条件として設定している。

3. 容認性に影響する要因に関する決定木分析の結果

容認度を、（1）「世代」（2）「性別」（3）「職業」（4）「サービス業への従事・非従事」（5）店員の「性別」（6）述部の「待遇形式」（7）「統語度」（8）「関与度」（9）「文タイプ」、の9つの特性（変数）で予測する決定木分析を行った。結果は、図2に示した。

まず、「述部タイプ」が最も強い影響要因[F (2, 84) = 405.21, p < .001]となった。容認度の高さの順に、*habnida* (M = 3.68, SD = 1.05) ＞ *haseyo* (M = 2.94, SD = 1.22) ＞ *hasibnida* (M = 2.87, SD = 1.26)となり、主体尊敬接辞-*si*-を含んだ事物尊称の形が、標準的な表現よりやや低い容認度で現れた。

次に強い影響要因は待遇形式によって分かれた。*habnida* 体では「文タイプ」が現れた[F (3, 28)=19.40, p < .001]（容認度の高い順に、#2(M = 3.90, SD = 1.02) ＞ #1，3，5，6(M = 3.74, SD = 1.01) ＞ #7(M = 3.56, SD = 1.09)＞ #4(M = 3.40, SD = 1.12)）。3番目の影響要因は「性別」が現れた[F (1, 16) = 14.58, p < .001]。

主体尊敬接辞-*si*-を含んだ待遇形式 *haseyo* 体では「文タイプ」が現れ[F (4, 28) = 26.78, p < .001]、従来的な所有敬語文（相手の関与度が最も高い文）（#1）が最も高く(M = 3.34, SD = 1.17)、客の関与度が最も低い文（#7）が最低となった(M = 2.59, SD = 1.21)。他の表現はこれらの間に入った。また、容認度が高めに出た文タイプと低めに出た文タイプを検討すると、高めに出たタイプ（##4，3，6）では主題の助詞-*neun/eun*（日本語の「ハ」相当）が使われていたのに対し、低めに出たタイプ（##2，5）では主部の助詞が-*ga/i*（日本語の「ガ」相当）であった。格表示によって統語構造が意識されやすいと容認度が下がるのに対し、主題化され格表示が中和されていると述部との呼応が緩やかになり、容認性が上がるものと推察された。また、*habnida* 体では容認度が最も低かった文タイプ4は、*haseyo* 体では2番目に高い結果となった。その理由としては、禁止表現の「～(し)てはいけない」を含んでいることが挙げられる。つまり、聞き手である客の行為にかかわる表現であり、格式形である *habnida* 体よりも主体尊敬接辞-*si*-を含んだ形のほうが好まれると考えられる（*hasibnida* 体では3層目に文タイプ4が最も高い結果となっている）。3番目の影響要因は、「世代」が異なる文タイプで見られた。全体的に 50 代と 40 代で容認度が高く、30 代が最も低かった。

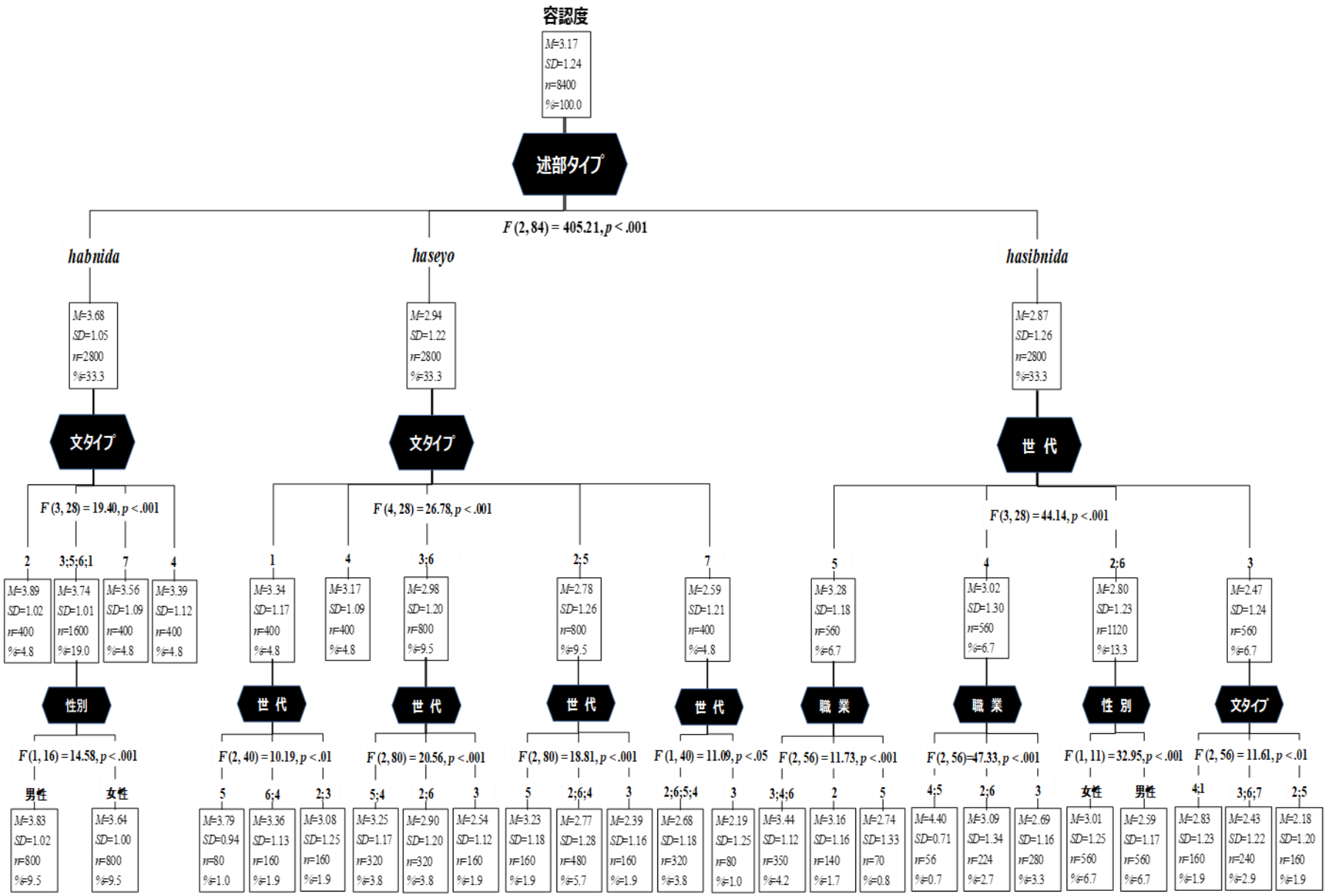

図2　韓国語の斬奇なモノ敬語の容認性に関する決定木分析

一方、もう一つの主体尊敬接辞-*si*-を含んだ待遇形式*hasibnida*体では、「世代」の影響が2番目に強かった[$F(3, 28) = 44.14, p < .001$]。50代の容認性が最も高く($M = 3.28, SD = 1.18$)、次いで40代($M = 3.02, SD = 1.30$)、反対に最も低かったのが30代であった（$M = 2.47, SD = 1.24$）。このように40代や50代の世代がモノ敬語に対して寛容であるのに対し、30代が一番厳しく評価しているという結果となった。3番目の影響要因は、「職業」、「性別」、「文タイプ」が異なる世代で見られた。

なお、これ以外の4つの変数「サービス業への従事・非従事」、店員の「性別」、「統語度」、「関与度」[1]は、3層目までに現れなかった。

4. 考察と結論

今回の調査における我々の関心は、①現代韓国語の新奇なモノ敬語が、人々の意識において実際どの程度受容されているかを確認したい、ということに加え、その影響要因として、②所有敬語において認められる相手の関与が、その度合いの強弱として新奇なモノ敬語にも関係しているか？ また、この現在進行中の変化に対して、③回答者の世代によって許容度が異なるのではないか？という点を確認・特定するところにあった。この3つの焦点について、得られた結果を考察する。

まず、①受容の程度については、事物尊称-*si*-を含んだ *haseyo* 体も *hasibnida* 体も、従来からの正用法よりは有意に低いものの、5段階評価の中央値である3に近い容認度が得られており、韓国語の新しい敬語用法として一定程度受け入れられていることが判明した。このことは、現代韓国語の敬語に、「聞き手」に重点を置く観点からの変化が生じていることを示唆している。

②については、新奇なモノ敬語の典型と言える *haseyo* 体において、相手の関与度が高い従来的な所有敬語で容認度が最も高く、相手＝客に無関係な内容を述べている文で容認度が最も低かったことから、文タイプによる容認度の差に相手＝客の関与度が影響しているとの解釈が支持されるだろう。文タイプによる影響に関しては、予想していなかった要因も見出された。格表示によって統語構造が意識されやすいと容認度が下がるのに対し、主題化され格表示が中和されていると容認度が上がる結果となったことは、人々の文法意識が実際かなり微細なレベルで働いていて、用法の容認度に影響していることを示唆しており、興味深い知見であると考える。

③の世代については、①や②ほど強くはないものの、待遇形式 *hasibnida* 体では第2層に、*haseyo* 体では第3層に現れ、有意な影響要因であることが確認された。ただし、結果は事前の予想とは異なるものだった。一般に、新しいものに対して若い世代ほど容認度が高いと考えがちであるが、本調査の新奇なモノ敬語に関しては、中年世代の 50 代、40 代で容認度が高く、次いで 60 代以上の年配者や若年層（20 代）が続き、30 代が最も低いという結果となった。30 代～50 代は働き盛りであり、接客の場面に触れる機会が一番多い世代であるのにもかかわらず、40 代・50 代 対 30 代という対立が現れたことは意外な驚きでもあった。

事物尊称の使用は、接客・サービス業界という特定の社会的な環境の下で、話し手が聞き手を常に高める必要があり、聞き手に対して最大限に敬意を払わなければならないという条件に対する、いわば社会語用論的戦略として登場し広まってきたものと考えられる（丁 2016）。本調査の結果はその見解をさらに深めるもので、新奇な敬語と言える事物尊称の使用が、対面的な話し手―聞き手関係における「聞き手意識」（滝浦 2020）に影響されている可能性を示唆するものと言えよう。

---

[1] 「統語度」は、今回の調査では対象としていない別の用法との容認度比較において必要となる特性（変数）である。「関与度」は、より細かい「文タイプ」における差として現れたので、そちらで考察する。

引用文献

林炫情・玉岡賀津雄・宮岡弥生(2008)「日本語と韓国語の第三者待遇表現―聞き手の違いが他称詞と述語待遇選択に及ぼす影響」『山口県立大学国際文化学部紀要』14, 56-70.

韓国国立国語院(2012)『標準韓国語文法辞典』アルク

黄郁蕾・玉岡賀津雄(2015)「中国人日本語学習者の助言場面における意識と行動に影響する諸要因」『言語文化と日本語教育』48/49 合併号, 11-21.

滝浦真人(2020)「「ポライトネスの原理・原則」と日本語ベネファクティブの敬意漸減」加藤重広・滝浦真人編『日本語語用論フォーラム3』ひつじ書房, 75-104.

丁仁京(2013)「韓国語の事物尊称について」『言語と文明』11, 55-71.

丁仁京(2016)「韓国語の先語末語尾 '-시(si)-' の対者敬語化－日本語との比較－」『福岡大学人文論叢』48(2), 561-592.

李璐・玉岡賀津雄(2019)「中国人日本語学習者の間接発話行為の理解―慣習性と習熟度の影響―」『中国語話者のための日本語教育研究』10, 12-28.

김은혜〔キム・ウンヘ〕(2016)「한국어 선어말 어미 '-시-'의 사물 존대 기능: 백화점, 대형마트, 재래시장 판매원의 발화를 중심으로(韓国語先語末語尾'-si-'の事物尊待の機能:百貨店、大型ショッピングモール、伝統市場の販売員の発話を中心に)」『사회언어학(社会言語学)』24(1)、pp.91-113.

東亜日報(2012)「사물존칭, 표준말 될라(事物尊称、標準語になるかも)」2012. 09. 22(https://www.donga.com)

박석준〔パク・ソクジュン〕(2004) 「선어말어미 '-시-'의 문법외적 용법에 관하여(先語末語尾'-si-'の非文法的用法について)」『한말연구(ハンマル研究)』 4, 201-220

이수현〔イ・スヒョン〕(2012)「서비스업 종사자들의 언어 사용 양상-백화점 점원의 언어 사용을 중심으로-(サービス業従事者らの言語使用の様相－百貨店の店員の言語使用を中心に－)」『어문연구(語文研究)』71, 79-97.

알바몬〔アルバモン〕(2019) 「알바생 공감 '엉터리 존댓말' (アルバイト生の共感「でたらめ尊敬語」)(https://www.albamon.com)

이래호〔イ・レホ〕(2012) 「선어말 어미 '-시-'의 청자 존대 기능에 대한 고찰 (先語末語尾'-si-'の聴者尊待機能に関する考察)」『언어학연구(言語学研究)』23, 147-166.

이정복〔イ・チョンボク〕(2006) 「국어 경어법에 대한 사회언어학적 접근(国語敬語法に関する社会言語学的接近)」『국어학(国語学)』47, 407-448

이정복(2010) 「상황 주체 높임 '-시-'의 확산과 배경(状況主体敬語'-si-'の拡張と背景)」『언어과학연구(言語科学研究)』55, 217-246.

JUNG, In-kyung (2020). The Shift in Honorifics in Contemporary Korean: A Focused Study of the Subject Honorific '-*si*-'. 『福岡大学教育開発支援機構紀要』2, 29-43.

Sachiko Kiyama, Youngmi Choung, and Masato Takiura (2019) Multiple factors act differently in decision-making in the East Asian region: Assessing methods of self-construal using classification tree analysis. *JCCP*, 50(10), 1127–1139.

Tamaoka, K., Lim, H., Miyaoka, Y., & Kiyama, S. (2010). Effects of gender-identity and gender-congruence on levels of politeness among young Japanese and Koreans. *Journal of Asian Pacific Communication,* 20, 23-45.